

GLOBAL VOYAGE

[グローバル ヴォヤージュ]

PEACE BOAT

2024

Spring

シンガポールに魅せられて

第二特集

見て楽しい、参加してもっと楽しい
船内イベントで盛り上がる

[発行](株)ジャパングレイス

人気の観光スポットを大いに楽しもう

商業、金融などの分野で世界的に重要な役割を果たしながら成長を続けているシンガポール。東南アジアで最も人気のある国といっても過言ではないほどで、世界の観光都市のなかで近年ランキングを高めている。住みやすさに定評があるように高度なインフラが整い、清潔な環境で知られるこの国では多様な文化、美しい自然をはじめテーマパークやアクティビティなど訪れたいスポットが目白押し。またフレンドリーでオープンなお国柄なので、安心して観光を楽しめる。



Singapore

Marina Bay・Little India・Arab Street・Singapore Botanic Gardens・Singapore Zoo・Katong



GLOBAL VOYAGE 2024 Spring

CONTENTS

特集

人気の観光スポットを 大いに楽しもう…………… P3

多様な文化が共存し
多彩な魅力をもつシンガポール…………… P4

国際的な洗練された雰囲気が漂う
マリーナベイ…………… P4

異文化を体験できる
リトルインディア…………… P6

異国情緒あふれる
アラブストリート…………… P6

シンガポール植物園、シンガポール動物園で
自然にふれる、動物と出会う…………… P7

シンガポールがいっそう楽しくなる
おすすめグルメ…………… P8

12日間で全5寄港地をめぐる
夏の北海道&韓国
ショートクルーズ2024…………… P10

第二特集

見て楽しい、参加してもっと楽しい
船内イベントで盛り上がる…………… P12

PEACE BOAT ACTIVITIES…………… P16

武力紛争予防のための
グローバルパートナーシップ(GPPAC)
国際運営会議…………… P19

表紙の写真

マライオンからマリーナベイ・サンズを望む。シンガポール観光のシンボリックなスポットの一つ。



多様な文化が共存し 多彩な魅力をもつシンガポール

先進的な大都市として世界に名を馳せるシンガポール。外国資本を誘致し経済政策を進め、唯一無二の都市国家を形成した方で、多民族国家として多彩な文化の融合が随所に見られ、それが観光面でも多くの人を魅了している。



シンガポールの正式名称はシンガポール共和国。本島のシンガポール島と大小50ほどの島々からなる都市国家である。1824年からイギリスの支配を受け、1963年にマレーシアの一部として独立し1965年に分離独立した。国としての歴史は若く、総面積は東京23区よりやや広い程度だが、金融、製造、貿易、教育、観光など多くの国際ランキングでトップクラスにある。

観光面では「マリーライオン公園」や「ラッフルズホテル」といった世界的に知られるスポットをはじめ、先進的な都市デザインや建築物が世界の観光客を魅了している。またシンガポールには中華系、マレー系、インド系その他のアジア系など多様な民族が共存しており、それぞれの文化が尊重されているため新旧交わる街並みや多国籍文化にふれることもできる。



1



2

1:2010年のオープン以来世界各国の観光客が訪れる新定番スポット「マリーナ・ベイ・サンズ」。2:ガラス張りのカプセルに乗って一周約30分の空中遊覧を楽しめる「シンガポール・フライヤー」。

国際的な洗練された雰囲気漂うマリーナベイ

美しい状況が楽しめるマリーナベイ。近代的な都市空間にシンガポールを代表する観光スポットが集まっており、散策しながらお気に入りの施設は時間をかけて楽しみたい。

シンガポールの最もスタンダードな観光エリア「マリーナベイ」。いわずと知れたシンガポールのシンボル、マリーライオン像が建つ「マリーライオン公園」からは港全体を見渡せる。今やシンガポールのランドマークとなった「マリーナベイ・サンズ」は3つの高層ホテルに船形の屋上に乗った特徴的な建物で、57階の展望デッキからは壮大な景色を楽しむことができる。またショッピングモールやレストランなども誰でも利用できる。

2012年にオープンした世界最大級の植物園が「ガーデンズ・バイ・ザ・ベイ」。広大な敷地に世界中から集められた植物が並び、遠くからも目を引く人工ツリー「スーパーツリー・グローブ」では2本をつなぐ吊り橋で、空中散歩も楽しめる。景観といえば最高到達点地上165mの観覧車「シンガポール・フライヤー」もおすすめ。なかで食事ができるプランもあり、シンガポールの街並を一望できる。このほか「エスプラネード・シアターズ・オン・ザ・ベイ」や「アート・サイエンス・ミュージアム」といった文化施設も見どころだ。



3



4



5

3:日中とはまた違った表情を見せるマリーナベイの夜景は幻想的な美しさで人気。4:総面積101ヘクタールの敷地を有する「ガーデンズ・バイ・ザ・ベイ」では世界中の植物を鑑賞できる。5:「ガーデンズ・バイ・ザ・ベイ」内にある「クラウド・フォレスト」はドーム内に落差約35mの滝があり、東南アジア、熱帯アメリカなどの雲霧林を再現している。

Marina Bay



シンガポール観光では欠かせない「マリーナベイ」の全景。かつて貿易港として栄えた港は、国際都市シンガポールの象徴になった。



花が開いたような外観が特徴の「アート・サイエンス・ミュージアム」は文字通りアートとサイエンスの融合をテーマにした博物館。

プラナカン文化の 中心地、カトン地区へ

「プラナカン」とはシンガポールに移住してきた男性と現地のマレー女性の子孫のことで、彼らが生み出した独特の文化を「プラナカン文化」という。カトン地区はその中心地であり、パステルカラーを多用するのが一つの特徴で、建物をはじめ食器や雑貨、お菓子までカラフルで可愛らしい世界が展開されている。これもまた多民族国家としての一つの「顔」である。



それぞれ色づかいが異なるショップハウス。

お土産に最適な プラナカン雑貨



鳳凰や牡丹の
伝統柄が美しいティーポット。

プラナカン商品は
陶器が多くミニスプーン
は特に人気。



家の装飾などに用いられる
プラナカン・タイル。



一粒ずつ手でビーズ刺繍したビーズサンダル。

緑化政策を進めるシンガポールは「ガーデンシティ」と呼ばれるほど緑が多い。その象徴でもあるのが世界遺産の「シンガポール植物園」である。東京ドーム13個分の広大な敷地を有し、英植民地時代から150年以上の歴史を誇る。自然豊かな景観はもちろん、世界各地から集められた多種多様な植物を観賞できる。なかでも蘭園は人気が高く、さまざまな種類の蘭が咲き誇り、来園者を魅了している。



都会のオアシス「シンガポール植物園」は園内にいくつものウォーキングトレイルもある。

シンガポール植物園、 シンガポール動物園で 自然にふれる、動物と出会う

シンガポールは島の半分を緑に囲まれ自然保護にも積極的だ。市民の憩いの場でもある広大な植物園や野生動物を近くで観察できる動物園もぜひ訪ねたいスポットだ。



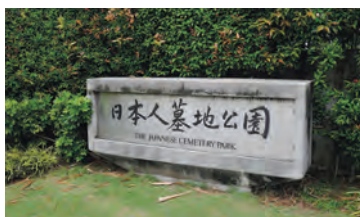
「シンガポール動物園」ではゾウやオランウータンがパフォーマンスを披露するショーが人気。

第二次世界大戦下の「昭南島」について学ぶツアー

第二次世界大戦中、日本はシンガポールに侵攻し3年半にわたり「昭南島」として支配下においた。ピースボートクルーズでは、日本占領期に戦争捕虜と民間人を収容していた施設、日本人墓地などをまわり昭南島の歴史を学ぶツアーを開催。過去の歴史に向き合い戦争の愚かしさを胸に刻んでほしい。



「チャンギ博物館」では、収容者の遺品などを通して、当時の生活の様子を知ることができる。



この地で亡くなった日本人兵士、日本人の遺骨を拾い集めてつくられた日本人墓地公園。

Little India



1:カラフルな建物が並ぶカラバオ・ロード沿いのエリア最古の中国人邸宅のひとつ「タン・テンニャ氏の邸宅跡」。2:クリーム色と緑色の外壁が美しい木造ムーア様式の建物「アブドゥル・ガフルモスク」。3:露店エリアはさまざまな商品が取り扱われお祭りのような雰囲気。4:インドの神様「ガネーシャ像」の置物。



スパイスやお香の薫る通りをサリールを身にまとった女性が行き交い、インド料理店が立ち並ぶ華やかな街並み。ここはシンガポールで見逃せない観光エリア。極彩色の門が目を引き「スリ・ヴィラマ・カリアマン寺院」は、写真に収めたくなるおすすめのスロット。1910年に創建された「アブドゥル・ガフルモスク」は南インドからのイスラム教徒の商人たちのために建てられ、独特

の建築様式が見どころ。インド料理を堪能するなら本場の料理が気軽に楽しめる「テッカ・センター」の屋台街へ。名物のフィッシュヘッドカレーで有名なレストラン「バナナリーフ・アパロ」もおすすめ。何でも揃うといわれる「ムスタファ・センター」はさまざまな種類の商品が所狭しと並んでおり、お買得品もたくさん。アーユルヴェーダ石けんやヘアオイルなどの土産物も人気だ。

異文化を体験できる リトルインディア

セラングリーン・ロードを中心に広がるインド系シンガポール人の居住エリア、リトルインディア。グルメやファッションはじめインド文化を満喫しよう。



街に多く建てられているヒンズー教寺院は華やかな装飾が特徴。

異国情緒あふれる アラブストリート

シンガポール最大のイスラム寺院「サルタン・モスク」を中心としたアラブストリート。日本から遠いアラビアンの世界に浸ることができる。



5:礼拝時に多くの信者が集まり祈りを捧げる姿を見られる「サルタン・モスク」。6:絨毯をはじめテキスタイルや香水、ランプなどが売られている雑貨店。7:アラブストリートを代表する土産物の一つ、香水瓶。



19世紀のはじめにマレー人、イスラム教徒、アラブ系民族が生活するエリアとして割り当てられたとされるアラブ人街。マスカットストリートに位置する「サルタン・モスク」は金色のドームが印象的でモスク内の二部が見学できる。モスク前の通りは歩行者専用の「ブッソーラストリート」。きれいにタイルが敷かれヤシの木が並び、アラブ料理のレストラン、土産物店もたくさんある。特にエキゾチックな模様の絨毯やキリム（平織り）を用いた雑貨、アクセサリー、籐製のカゴなどが目立つ。流行に敏感なスポットとして人気なのが「ハジ・レーン」。カラフルなウォールアートが続く通りで記念撮影をする人も多い。人出が多いブギス駅界隈で露店が約600店舗続く「ブギス・ヴィレッジ」を二回りするのも面白い。小腹が空いたら気軽に食べられるアラブ風お好み焼き「ムルタバ」がおすすめです。



水タバコの煙と香水の薫りが漂う異空間の雰囲気を楽しむ。

★名物の屋台街、ホーカーに行ってお店の味を楽しもう！



ごはん好きなおかずを乗せる定食のシンガポール版、エコミーライス。



前菜からスープ、炒め物、煮込みとさまざまなメニューがあるブナカン料理。



市内のいたるところにあるホーカーセンターで独自の食文化を堪能しよう。

みなさんに
ぜひ食べて欲しい
現地の味を
チョイスしました！

88回クルーズ
GETティーチャー、
トラベルライター
Wendy Ngさん

現地在住コーディネーターWENDYの

シンガポールがいっそう楽しくなる おすすめグルメ

その国、地域ならではのグルメとの出会いは旅の大きな楽しみです。シンガポールへ寄港した際のグルメ情報は、現地コーディネーターのウェンディにお任せあれ。トラベルライターでもあるウェンディは生まれも育ちもシンガポール。「皆さんにぜひ食べてほしい」というフードやスイーツを紹介します。



【ボボチャチャ】

Bubur cha cha

たくさんの具が入ったお粥で朝食、デザートとして食べます。



【アイスカチャン】

Ice Kacang

練乳氷を使いフルーツや餅などをトッピングするスイーツ。



【ラピス・サグ】

Kueh Lapis Sagu

ココナツテイストのお菓子。もちもちとした食感です。



【チリクラブ】

Chili crab

ゆでたカニにトマトベースのスパイシーなソースをたっぷりかけて、溶き卵を加える。辛味、酸味、甘味が絶妙な名物料理です。



【バクテー】

Bak kut teh

骨付きの豚肉をさまざまな香辛料とニンニクとともにスープで煮込み、コショウをきかせて仕上げます。滋養もたっぷりです。



【ホッケンミー】

Hokkien mee

麺を海老と豚の濃厚な出汁で炒めて、唐辛子やライムなどを添えた国民食。弾力があり、噛み応えある食感が楽しめます。



【タイガービール】

Tiger Beer

シンガポールで生まれ東南アジア全域で飲まれています。ホップの苦みがきいたキレ、喉ごしもいいフルーティなビールです。



【サテ】Satay

日本の焼き鳥に似ていますが、鳥のほか豚やマトンを使ったものもあります。ケチャップマニスやコリアンダーなどに漬けて炭焼きします。



Laksa [ラクサ]

種類が多く、シンガポールではピリ辛のココナツミルクベースのスープに麺が入り、エビ、卵、もやしなどのトッピングをします。



シンガポールにきて気軽に美味しいグルメを楽しむなら、ホーカーセンターへ。屋内型の屋台街のことで国内に100以上あるんですよ。このホーカー文化は2020年に世界遺産にも登録されているのでぜひ訪ねてほしいです。おすすめはたくさんありますが、中華系だとエコノミーライス。おかずを数種類選んでごはんに乗せてもらいます。マレー系の人が朝食でよく食べるナシレマはココナツミルクで炊いたごはんになッツや揚げた小魚、サンバルソースな

どが付いてあとはお好みでトッピングできます。ショップハウスの一角などにあるソーチャーもシンガポールらしい食事が味わえます。ホーカーよりちょっと豪華で、レストランよりリーズナブルな街の食堂といったところ。シンガポールではそれぞれお気に入りの店があり、家族や友人同士で食事を囲みます。おすすめはチリクラブというカニ料理、マレー系、中華系とインド系をミックスしたプラナカン料理でいずれも少し高級ですが、皆さんでシェアして楽しんでください。

どの料理も
いつ食べても
おいしい！



【チキンライス】Chicken Rice

シンガポールのソウルフード。鶏一羽を使い、生姜、バンダンリーフを入れて鶏スープで炊き上げます。有名店も多くあります。



Afternoon tea

機会があればアフタヌーンティーも楽しんでください。ホテルの場合はブッフェ形式で好きなものを取るスタイルで、レストランの場合はセットになっている場合が多いです。軽食やお菓子で優雅にくつろぐひとときを体験してください。



いろんな味付けが
あって楽しい！





旅の始まりは豊かな自然が人気の観光地、済州島から。世界遺産にも登録された景勝地「城山日出峰」をはじめ、世界最長の溶岩洞窟「万丈窟」などが楽しめる。また韓国本土とは異なる島民の文化にふれた後は、市場で韓国グルメを堪能したい。京都の日本海側に位置する海の街、舞鶴では明治時代に建てられた「赤レンガパーク」、美しい景観の「天橋立」などを巡りたい。風情ある城下町として人気の金沢は、日本三大名園の「兼六園」、趣ある「ひがし茶屋街」、感性を刺激する展示物が揃う「金沢21世紀美術館」、そしてグルメの宝庫「近江町市場」など魅力が満載だ。そしてクルーズ後半は爽やかな風吹く北海道へ。小樽では、ノスタルジックな建物が立ち並ぶ「小樽運河」、明治から昭和初期の商家や洋館が残る街並みも魅力。余市へ足を延ばせばニッカウキスキーの原点「余市蒸留所」を訪ねることもできる。タイムスリップしたような雰囲気を楽しめる函館では、日本最初の洋式築造城郭「五稜郭」や洋式商用帆船「箱館丸」、「旧函館区公会堂」など歴史遺産を見ることができ、また海の幸グルメも楽しめる。

12日間で全5寄港地をめぐる

夏の北海道&韓国 ショートクルーズ2024

毎回、多くの参加者から好評いただいている、船旅のこだわりがギュッと凝縮されたショートクルーズ。今夏の北海道と済州島(韓国)をめぐる12日間の船旅では、この季節ならではの美しい景色に出会うことができる。長期休暇がとりにくい、船旅経験がないから不安といった人にもおすすめ。各寄港地での観光とともに、洋上に広がる開放的なひとときを心ゆくまで満喫してほしい。



2024年7月30日(火)～8月10日(土) [神戸発/横浜着12日間]



函館



小樽



金沢



舞鶴



濟州島

北海道に寄港しますので、アイヌ民族の歌や踊りといった文化を発信している「チャシアン・カラの会」代表の島田あけみさんから、アイヌの文化や歴史についてお話しいただきます。また、江戸文化研究の第一人者である田中優子さん(法政大学前総長)の乗船も決まりました。グローバル化が急速に進む中で、江戸時代における柔軟性や創造性を理解し、その精神を現代に生かすことを伝えています。その他にもアーティストやパフォーマーなど、さまざまな分野で活躍する個性豊かな方が乗船予定ですのでご期待ください。

✧ **どんな水先案内人(ゲスト)の方々が乗船されますか?**

まずはお楽しみですね。天橋立など美しい景観を楽しむことができます。港の目の前には日本海側最大級の海鮮市場があり、新鮮さ、安さ、種類の豊富さなど国内トップクラスです。新鮮な魚介類を目の前でさばいてもらい、お刺身や海鮮焼きとしてすぐに食べられるシステムが大好評。港からすぐ近くにそんな場所があるのも船旅の魅力です。

もうひとつは京都の舞鶴です。天橋立など美しい景観を楽しむことができます。港の目の前には日本海側最大級の海鮮市場があり、新鮮さ、安さ、種類の豊富さなど国内トップクラスです。新鮮な魚介類を目の前でさばいてもらい、お刺身や海鮮焼きとしてすぐに食べられるシステムが大好評。港からすぐ近くにそんな場所があるのも船旅の魅力です。

最近、海外から日本を訪れる観光客の姿も多くみられるようになりました。いよいよ旅が本格的にできる時が来たんだと実感しています。久しぶりの旅行でどこに行こうか迷っている方、いま申し込みをしている世界一周クルーズの出発がまだ少し先の方、そんな方々には、まずこの日本一周クルーズで旅の再開をしていただきたいと思います。きっと「旅の素晴らしさ」を再認識する素敵な時間になるはずです。

✧ **特におすすめの寄港地はどこでしょう?**

クルーズの魅力は、客船でのクルーズを一度体験してみたいという方から、世界一周クルーズに乗る前のお試しに参加される方も多くいます。私が思うクルーズの魅力としては、なんととても船から見る景色です。360度広がる大海原はもちろん、朝陽と夕日、そして満点の星空。日常を離れた開放的なひとときはとても贅沢です。もうひとつは出会いですね。年齢も国籍も生まれ育った環境も異なるさまざまな方との出会いは刺激的です。クルーズの日数は12日間となりますが、下船後も繋がっていくような出会いこそ船旅の醍醐味です。

✧ **最後に言をお願いします**

世界一周クルーズでも大好評のカルチャースクールは、プロの講師による本格的なレッスンが体験できます。人気の社交ダンスの他にも、ヨガ、水墨画教室も開講予定。今クルーズの一大イベントは洋上夏祭りです。縁日の屋台など日本の夏の風物詩を屋上デッキでお楽しみください。お祭り気分を盛り上げてくれるビアガーデンもオープン予定です。また、今クルーズでは広島平和記念日(8月6日)と、ながさき平和の日(8月9日)を洋上で迎えますので、平和について考える企画も実施いたします。

✧ **クルーズの魅力を教えてください。**

クルーズディレクターに聞く
旅の素晴らしさを再認識する
見どころ満載のクルーズへ



クルーズディレクター
田中 洋介
1978年東京生まれ。大学卒業後、添乗員として各地を訪問。2003年ピースポートクルーズに初乗船。2014年の第86回クルーズからはクルーズディレクターとして活躍。これまで世界一周クルーズには12回乗船している。

✧ **船内企画はどのようなものがありますか?**

2024年夏は
日本の魅力に出会う
ショートクルーズへ

お問い合わせ・資料のご請求は

[受付時間 9:00~18:00 定休:土日祝]

0120-95-3740

スマートフォンからかんたんにアクセス ▶▶▶

ピースポートショート

検索



最近、海外から日本を訪れる観光客の姿も多くみられるようになりました。いよいよ旅が本格的にできる時が来たんだと実感しています。久しぶりの旅行でどこに行こうか迷っている方、いま申し込みをしている世界一周クルーズの出発がまだ少し先の方、そんな方々には、まずこの日本一周クルーズで旅の再開をしていただきたいと思います。きっと「旅の素晴らしさ」を再認識する素敵な時間になるはずです。

アジア・ファッションショー

インド洋航海中の船内では、吹き抜けのアトリウムを使って、盛大なファッションショーが開催中。寄港地で購入した艶やかな民族衣装、自国から持参した民族衣装などまとった人が次々に登場し、会場をにぎわせた。あと数日で下船するアジア各国の乗船者にとっては最後のイベント。衣装紹介とともに、出会った友人へのメッセージも紹介され、涙目でステージを歩く人も。



Asian Fashion Show

旅で知り合った友人同士でお互いの国の衣装を交換した、というグループも登場し、胸を熱くさせる。エンディングではたくさんのバルーンがさらに気持ちを盛り上げ、撮影会はこのあと続いた。



参加する人も
見る人も
楽しそうだね



洋上で毎日開催されていたフラダンスのレッスン。参加した生徒さんたちは、この日のために猛練習されたそうで、やっと迎えた晴れ舞台はとってもいい笑顔。終了後はハワイアンカクテルで乾杯!

Hawaiian Show



ハワイアンショー

ハワイに向かう洋上でやわらかな南国の風をデッキで感じていると、プールサイドの舞台を使ってハワイアンショーが始まった。フラ・カルチャーの正統的継承者の称号「ウニキ・クムフラ」をもつサンディさんの歌声、そして、マリリンさんの美しいフラダンスにうっとりするショータイム。後半では乗船客も巻き込んだ大人数による迫力のステージに。数日後のハワイ寄港がより楽しみになるイベントとなった。

見て楽しい、参加してもっと楽しい 船内イベントで盛り上がる

ピースボートクルーズのお楽しみの一つが船内で開催されるさまざまなイベント。民族衣装のファッションショーやアラビアンナイトなど寄港地をテーマにした催しからジャグリングのパフォーマンスや落語家の独演会などのエンターテインメント、そしてクリスマスや夏祭りなど季節の行事など盛りだくさん。見て楽しい、参加すればもっと楽しくなる船内イベントにぜひご注目。



今回は南航路の
イベントを
紹介するよ

オールディーズナイト

懐かしいポップミュージックが聞こえてきたので、バーの中に入ってみると、そこはまるで1960年代のアメリカにタイムスリップしたかのよう。カラフルなワンピースやシャツに、当時のヘアスタイルをきめた男女が、ラインダンスで盛り上がっている。イベントを盛り上げているのは専属バンドの生演奏だ。誰もが知る名曲が次々流れて、また踊らずにはいられない。終了時間ぎりぎりまで音楽がやまないうちにぎやかな夜だ。



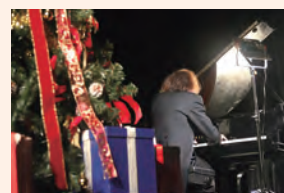
Oldies Night



カウンターでは、人々がハンバーガーを頬張り、派手なカクテルやコーラで乾杯、楽しそうに談笑している。名曲は時が経っても色あせない。当時を知らない若者から、懐かしむ世代まで、ライブや食事を楽しみながら、その時代に思いをはせていた。

クリスマスパーティー

南半球で迎えるこの日は、クリスマスソングを聞きながら半そで姿で海を眺める、いつもとは違う真夏のクリスマス。世界中のクリスマスの祝い方を紹介する企画に出ると、地域の違いを知ることができて楽しい。クリスマスディナーを楽しんだあとは、ギリシャ出身の世界的ピアニスト・パノスさんのコンサートへ。



大きなクリスマスツリーの下ではプレゼント交換が行われたり、船内で結成された合唱団がクリスマスキャロルを歌うひと時も。サンタやトナカイに扮した人々があちこちに登場し、船内ムードを盛り上げる。飾りつけもクリスマス一色、イベントが盛りだくさん1日となった。

華やかな装飾は
見て歩くだけで
楽しいね



旧正月

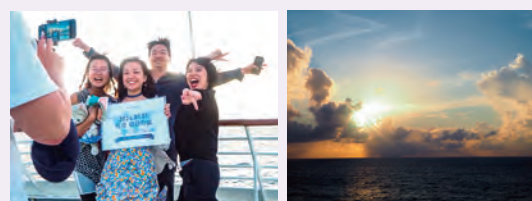
南航路のクルーズではお正月を2回体験できるのが嬉しい。アジア圏でお祝いする「旧正月」には伝統的な音楽や踊りが披露され、出身地域に関わらず集まった人々でお祝いしていると、乗客の皆さんと一緒に手作りした獅子舞が登場!さまざまな地域からの参加者と文化交流できるのもピースボートの魅力の一つだ。



船内は縁起のいいとされる赤色をメインに鮮やかに飾り付けられた。魔除けとされる爆竹の飾り、提灯やランタンに囲まれお祝いの演奏を聴く。初めて旧正月を体験したという人も多いに楽しんだ。

カウントダウン・正月

パシフィック・ワールド号で初めて迎えるお正月は、多くの人々が楽しみにしていたイベント!大晦日は年越しそばを食べ、年越しイベントのためにプールデッキへ。ライブで大いに盛り上がり、まもなく年明け、という時間になると巨大スクリーンに大きな数字が出現して、全員でカウントダウン。同じ船に乗り合わせた世界中の人たちと一緒に祝った2024年の年明け。忘れられない特別な時間となった。



水平線から昇る初日の出は格別。どんな願いをこめて初日の出を拝んだのか聞くと、ある女性は「毎年世界平和を祈ります、この船に乗って世界にたくさん友人ができて、思いはさらに強くなりました。」と答えてくれた。



New Year



本船中央のアトリウムラウンジには巨大門松と、書道家曾山さんによる巨大書き初めが飾られた。元旦は鏡開きや、書き初め大会、年賀状書きといった日本の正月行事が続く。誰もが洋上での特別なお正月を満喫した。

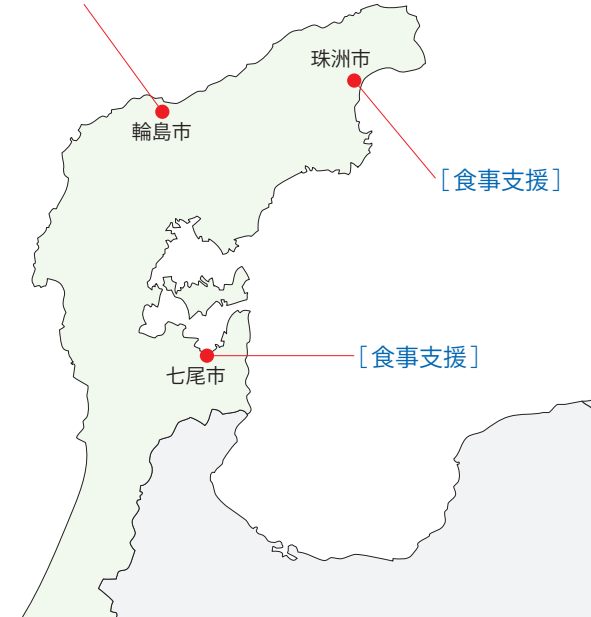
発災から3ヶ月 ニーズに合わせた 支援活動を展開

石川県能登半島地震 継続支援中 PBV活動報告

2024年1月1日に発生した石川県能登半島地震から3ヶ月が経った。ピースボート災害支援センター（PBV）は発災直後に現地入りしこれまでの災害支援の経験や知見を活かし、現地の団体や関係機関、支援団体と連携しながら支援活動を行っている。発災から3ヶ月経った現在の支援活動について報告する。



〔支援物資配布〕



2024年1月1日午後4時10分頃、石川県能登半島で発生した震度7の地震は、甚大な被害をもたらし、現在もその影響を受け困難な生活を強いられている人々が多くいる。PBVでは発災直後、次のような初動支援を行った。

1月2日 PBVスタッフを数名
現地に派遣
1月3日 炊き出し、物資配布
1月4日 物資配布等
1月5日 炊き出し等

その後も、地元の関係機関、支援団体と連携しながら「物資・備品提供」「食事支援」「関係機関の連携調整」などを継続して行っている。発災から3ヶ

月経った現在も現地では多くの支援を必要としており、PBVは珠洲市、輪島市で活動を継続している。
食事支援については、発災から1ヶ月の間に4000食以上の炊き出し提供を行い、2月6日からは「社会福祉法人すず椿」へ



毎日昼食を届けている。その後も学校へ避難されている方への炊き出しのほか学校給食の提供も行い子どもたちの笑顔に元気を

もらっている。東日本大震災でも支援活動を経験している管理栄養士が、バランスを考えた、美味しくて飽きないメニューを支援食材などを活用しながら工夫を凝らして調理している。

輪島市では行政職員と支援受け入れ調整や避難所のアドバイスなどを行っている。3月12日には石川県で立ち上がった「石川県復興生活再建支援チーム被災地生活支援グループ」の担当職員と避難所や仮設住宅、在宅避難の方々の生活における現状と課題を共有した。被災地においては被害状況や物理的



な立地条件など一つとして同じ災害は

なく、きめ細かい支援を行っていくために、今後も地元自治体、社会福祉協議会、各関係機関、多様な支援団体の連携は重要だ。

支援物資の配布や資機材設置および運営業務については、関連団体と毎日のように被災者状況の共有や課題、解決方法を話し合いながら活動を進めている。多くの支援団体が関わるため、情報共有会議や炊き出しの調整などは大切な仕事になっている。

このほか3月19日には日本に駐在し

ているラテンアメリカ・カリブ海諸国の16ヶ国の大使たちが輪島市を訪れ支援の意思を表明。PBVは東日本大震災の際も各国大使の受け入れを実施したつながりから、今回も大使たちの想いに応え、現地訪問のサポートを行った。輪島市役所を訪れた二行は坂口市長に面会し、代表を務めるジャマイカのリチャーズ大使が「朝市があった場所を訪れましたが非常に心が痛みました。復興や復興は長期におよぶと思います

が、私たちも支援に携わっていききたいです」と述べ、義援金の目録を手渡した。

今後の予定としては現在の活動の継続とともに中期的支援に向けて被災者の方々の生活再建に関わる「コミュニティ形成（サロンの実施など）」や「備品の提供（仮設備品支援）など」に力を入れていく予定。また状況に応じて「被災家屋の応急対応・保全」「避難所運営サポート」「災害支援のノウハウ提供や支援調整」「災害ボランティアセンター運営サポート」なども検討していく。



PBV ピースボート災害支援センター
ピースボート災害支援センター
〔オフィシャルサイト〕 <https://pbv.or.jp/>

2024年 石川県能登半島地震 緊急支援募金 ●皆さまのあたたかいご支援をお願いします

これまでPBV月額寄付金制度「災害支援サポーター」をはじめ支援者の皆さまのご寄付を活用して、発災直後の初動調査や緊急支援を迅速に開始できました。今後も必要とされる支援を確認しながら現地ニーズに合わせて支援活動を実施していきます。長期にわたる支援を支えてくださいますよう、ご協力をお願いします。



募金方法

- 郵便振替 ●銀行振込
- クレジットカード
- yahoo!ネット募金
- 携帯料金といっしょに寄付する



お気軽にお問い合わせください

TEL.03-3363-7967 11:00～16:00 土日祝定休

チリ・バルパライソ 森林火災の被害状況

チリ大規模火災緊急支援 P B V 活動報告

2024年2月2日、南米のチリ中部の沿岸地域などを中心に大規模な森林火災が発生した。P B Vではバルパライソ州周辺で広がっている被害状況について、ピースボート寄港地部のスタッフも所属する日系人協会の協力のもと情報を収集し、支援を開始している。



今回の火災では、チリの沿岸地域を中心に森林火災が発生したが、特に港湾都市のビーニャデルマールを含むバルパライソ州全体に被害が広がっている。報道や現地当局（SENAPRED）によると165件の火災が相次ぎ、少なくとも131名以上が亡くなり、300名以上の方の行方が分からない状況だ（2月7日時点）。消防や軍による懸命の消火活動、救助活動が行われたが、8,500ヘクタール以上が焼失し、4,000〜6,000棟以上の家屋が損害を受けた。

ミナルや医療センター、高齢者施設など生活に欠かせないインフラが大きな被害を受けた。

バルパライソはピースボートクルーズの寄港地であり交流ツアーの実施や日系人協会が「日本祭り」を開催してくるなど縁は深い。ツアーのコーディネイトなどを担当している現地スタッフの打村あきらからのメッセージを紹介したい。

「このたびの大火災で、2010年にチリを襲った巨大地震に次ぐ規模の被害を受けています。国立植物園では日本から送られた広島の被爆樹木や桜を育てており、これらも焼けてしまいました。その後の調査で生き残っ

2024年 チリ大規模火災 緊急支援募金

皆さまのあたたかいご支援をお願いします

募金方法

- 郵便振替
- 銀行振込
- クレジットカード
- 携帯料金といっしょに寄付する



■お気軽にお問い合わせください

TEL.03-3363-7967 11:00～16:00 土日祝定休

た木もあることがわかり、現在ケアに取り組んでいます。私たちは復興に向けて頑張っていますが、それは長い道のりです。この困難な時期に皆さまの支援をお願いします。寄付を通じて被災地の復興と、失われた緑地の再生にご協力いただければ幸いです。次回ピースボートクルーズの皆さんが寄港されるときは、また笑顔でお迎えしたいと思っています」。

P B Vでは現地の人々が安全な暮らしと笑顔を一日でも早く取り戻せるよう、今後の状況をふまえ支援を行っていく。

2024年 台湾地震 緊急支援募金開始

皆さまのあたたかい
ご支援をお願いします

募金方法

- 郵便振替
- 銀行振込
- クレジットカード
- yahoo!ネット募金
- 携帯料金といっしょに寄付する



■お気軽にお問い合わせください

TEL.03-3363-7967 11:00～16:00 土日祝定休

台湾の方たちは、これまで東日本大震災や石川県能登半島地震などで、多くの支援を日本の被災地に届けてくれました。台湾の大規模な地震被害を受けて、現地支援団体と連携しながら被害状況や支援体制、必要としている支援を確認し現地のニーズに合わせて支援活動を実施していきます。皆さまからのご寄付は、被災地のニーズに合わせて、緊急支援活動や生活再建、コミュニティ再建などに大切に活用させていただきます。



A Network of People
Building Peace



ロシアのウクライナへの軍事侵攻が長引き、中東ではガザ地区が人道危機に直面している。また昨年の世界における紛争の数は過去30年で最も多く、一方で観測史上地球の気温が最も高い年になった。平和構築の取り組みは地域、国そして国際的レベルで複雑さを増している。

G P P A Cは平和構築に関わる250を超える市民団体からなる、世界で最も大きなNGOネットワークで、各地域がそれぞれ主導しているのが特徴。ピースボートは共同代表の吉岡達也がG P P A Cの理事長を務めている関係でG P P A C東北アジア地域事務局として本会議を主催した。今回は5年ぶりの対面開催となり、いざ始まると止めるのが難しい武力紛争に対して、国際社会、とりわけNGOをはじめとする市民社会に何ができるかを、具体的に影響力のある行動を強化するためにじっくりと話し合った。

また1月25日には、日本の平和構築の専門家の意見や専門知識を共有するため、衆議院議院会館にて政策を議論する円卓会議「ウクライナ、ガザ、そして世界の紛争に向き合う…地球に根差した平和構築の実践例から」を行った。この場には国内の与野党代表者（自民党、公明党、立憲民主党、共産党、れいわ新撰組）、外務省担当者、市民社会の専門家などが参加し議論を交わした。



この円卓会議の議論をふまえ、G P P A Cネットワークのメンバーは「地域主導の平和構築を通じたグローバルな安全保障への取り組み」と「分断を克服して武力紛争を防ぐための、対話と地域間協力の緊急の必要性」について声明を発表した。

本会議はローカルな平和構築家たちが集い、多様な意見が交わされ、平和構築活動を形づくる複雑な諸問題にどう最善を尽くしながら対応すべきか議論する貴重な場となった。G P P A Cのように多数の団体が関わるネットワークを通して平和構築に携わる、ネットワーカーアプローチの重要性は高く、ピースボートは今後も影響力をもった平和構築のために貢献していく。

武力紛争予防のための グローバルパートナーシップ(GPPAC) 国際運営会議

2024年1月22日から26日にかけて、設立20周年を迎える国際NGOネットワーク「武力紛争予防のためのグローバルパートナーシップ(GPPAC)」の世界各地で活動するメンバー約50人が東京に集まり、ピースボート主催のもと平和構築に関する課題について議論した。



船上百景 [くつろぎの時間]



海原を進んで次の寄港地に向かう船旅には豊かな時間が流れる。

思い思いに過ごす クルーズにおける宝ものの時間

クルーズの魅力はたくさんあるが、船上における日常から開放された時間、非日常的な風景との出会いもその一つだ。日々、目の前に広がる海。デッキに出ていると海の表情が刻一刻と変わっていくのを見ることが出来る。その色合いや波の動きはいつまでも見飽きることがなく、時間を忘れてリラックスできる。また海に描かれる航跡波を眺めていると旅情が高まり「世界を旅している」実感もひとしおだ。船内ではさまざまな企画、イベントに参加して賑やかに過ごすのも楽しいが、一人で長編小説をゆっくり読み進めたり、初めて手にする楽器のマスターにチャレンジするのもいい。広い船内にはゆっくり落ちていて過ごせるスペースがたくさんあるので、お気に入りの場所でくつろぎのひとときを満喫したい。



デッキで過ごすティータイムも格別。



開放的でとても贅沢な時間を過ごす。



「サグラダファミリア」について2026年完成へ！驚きのニュースでした。着工から100年以上が経過しても今なお建築中で、完成までに300年を要すると言われていた世界遺産です。そのサグラダファミリアの主任彫刻家でもある外尾悦郎氏のインタビューで面白いエピソードがあります。

ある彫刻のお披露目会。記者や関係者が大勢いる目の前で事件は起こります。お披露目の彫刻に被せていた布を外す際、その布がひつかり大事な彫刻の首が取れて落ちかけます。その場にいた関係者全員が青ざめた瞬間、弟子がとっさに支えたその首の角度が絶妙だったと。外尾氏はそれを元通りには戻さずその角度のまま修正。なぜそうしたのかという問いには「僕一人ではこの形は絶対に思いつかなかったから」と答えています。

この話のように、他者との共同作業の中では思いもよらないことが起こることがあります。まさに「人旅では想像もつかないようなことが起きるのも多くの人が乗り合わせるクルーズの醍醐味です。船旅とは参加される方々がいてこそのものであり、船と乗組員だけでは船旅は完成しません。国内外津々浦々から集う皆さんでつくる、地球一周の船旅はいつまでも色あせることのない素敵な作品となることでしょう。

そんな旅立ちの日が少しずつ近づいています。外尾氏がいつも自分自身に言い聞かせてきた言葉をひとつ。「いまがその時、その時がいま」。今から出航が待ち遠しいですね。(MH)